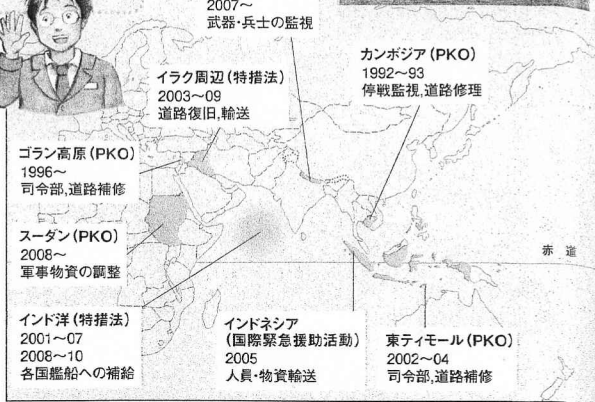
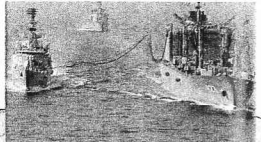




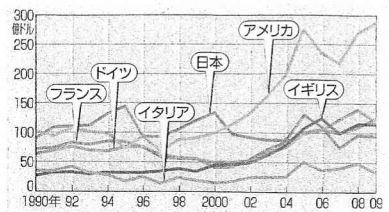
② 発展途上国への援助がなぜ日本のためになるのだろうか。



④ 自衛隊のインド洋での後方支援活動(2007年)



① 日本のODAによってつくられた橋(ラオス) ODAの事業は日本企業が請け負う場合もあり、一方的な援助ばかりとはいえ側面もあります。

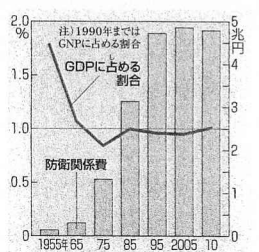


② 主な国のODA額の推移(外務省資料ほか)

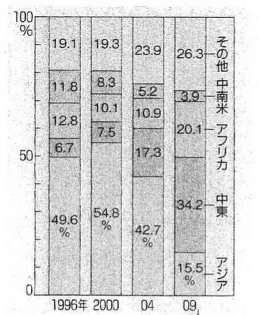
③ 自衛隊の参加した主な海外活動(防衛省資料ほか)

## 7 日本の平和主義と国際貢献

学習課題 平和主義を掲げる日本は、どのように国際社会に貢献しているのだろう。



⑤ 防衛関係費の推移(2010年刊 防衛白書)



⑥ 日本のODA供与対象地域(2010年刊 政府開発援助白書ほか)

第二次世界大戦後の日本は、個人の自由を尊重する民主主義の道をあゆんできました。憲法に戦争放棄を掲げ、平和主義を基本として、対外貿易と産業発展を重視する通商・経済国家となりました。

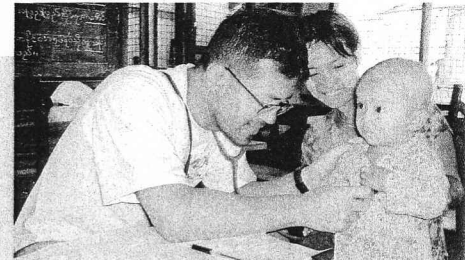
冷戦のもとで朝鮮戦争が発生すると、どのようにして日本の国民や国土の安全を守るのかが心配されました。日本は、日米安全保障条約を結んで、対外的な安全の多くをアメリカにたよりました。自らは自衛を目的とする防衛力のみをもちました。それとともに、攻撃的兵器の保有や国際紛争への介入をせずに、防衛費を国内総生産(GDP)の1%程度におさえてきました。そして、唯一の被爆国として、核兵器を「持たず、つくらず、持ちこませず」という非核三原則を掲げてきました。

復興をとげた日本は、経済の面から国際社会に貢献するようになりました。日本は、1970年代末から、発展途上国の経済や福祉の向上のために、さまざまな技術の協力や資金の援助をする、政府開発援助(ODA)を急速に拡大しました。特に東アジア

## 公民のさまざまな国際協力

ODAは、資金の援助だけではなく、国際協力機構(JICA)による技術や教育の普及活動があります。JICAの事業である青年海外協力隊では、市民が援助先の人々と生活しながらの国際協力が40年以上続けられています。

また、NGOによる民間の援助活動も盛んに行われており、専門知識を生かした技術や人道援助、緊急事態にすばやく対応できる利点があります。援助は、経済の安定をもたらすし、社会に対する不満をなくしていき、その地域に紛争が起きにくくすることで、平和に貢献しているのです。



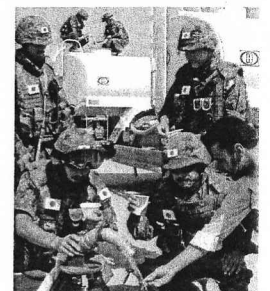
⑦ AMDAによる医療活動(ミャンマー)



⑧ 企業による蚊帳の普及活動(タンザニア) マラリアの原因となる蚊を寄せ付けない蚊帳を開発し、現地生産を行い、雇用も創出しています。



⑨ カンボジアで地雷の探査をする自衛隊員(1992年) 運輸や通信、選挙管理など、派遣地域の平和と安全を守る活動をしました。



⑩ 水道管を敷設する自衛隊員(2003年、イラク)

においては、貿易や投資、ODAなどの拡大を通じて経済発展に協力しました。急速な近代化をとげた日本が、その知識や技術と資金を提供し、アジア諸国の発展と安定、そして、平和で協力的な国際社会の形成に役立とうとしたわけです。アジア諸国が発展するにつれ、近年では、日本のODAは最も貧しいアフリカ諸国にも提供されるようになっていきます。

## 国際紛争と日本の役割

冷戦終結直後の湾岸戦争をきっかけに、日本は国連のもとでの平和維持活動(PKO)にも参加するようになりました。1992年に国際平和協力法(PKO協力法)を制定し、カンボジアの平和回復と復興のために、初めて自衛隊員と文民警察官を派遣しました。その後も日本は、ゴラン高原、モザンビーク、東ティモール、ハイチなどのPKOに参加しました。これらのPKOは、停戦合意が行われた社会に紛争が再発ないように、また、平和的に行われた選挙のもとで民主的政府がつくられ、人々の生活が安定するように支援しています。

平和主義を掲げた日本は、経済活動によって発展途上国の発展・安定と世界平和を支えつつ、PKOに参画するなど、国際協調のしくみのなかで、世界の安全保障への責任を担っています。

学習課題を確かめよう 日本はどのような方法で国際社会に貢献したらよいのかをみんなで話し合ってみよう。